

第4章 将来像と二酸化炭素排出量の削減目標

1. 将来像

地球規模の温暖化対策への動向を見据えつつ、箕輪町では目指す将来像を次の通り掲げ、2050年ゼロカーボン実現に取り組むものとします。

【地球温暖化対策における将来像】

『未来に誇れるゼロカーボンの町 みのわ』

この将来像には、私たちが受け継ぎ、大切にしてきた豊かな自然と産業が調和した箕輪町を次代につなげ、未来の子どもたちがそのまた次の世代にも誇れる町にしたいという願いが込められています。

2. 温室効果ガスの削減目標

長野県では、県内77の全ての市町村が賛同する「気候非常事態宣言－2050ゼロカーボンへの決意－」を2019(令和元)年12月に表明し、2020(令和2)年に策定した「長野県ゼロカーボン戦略」で日本の脱炭素化をリードする野心的な削減目標として”2030(令和12)年までに2010(平成22)年度比で6割減”を目指しています。

また、国連機関「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の第6次報告書によると、世界の平均気温上昇を1.5℃以下に抑えるためには、削減量にくわえてカーボンバジェット^{注1}(炭素予算)を意識する必要もあります。

本計画における二酸化炭素を含む温室効果ガスの実質排出量を、長野県のゼロカーボン戦略や国際的な潮流を踏まえて次の削減目標を設定します。なお基準年は2013(平成25)年度です。

気候変動については、様々な不確実性があることから、最新の研究結果など今後も国内外の動向を注視していくものとします。

【温室効果ガス削減目標】

2030年度の温室効果ガス実質排出量

60%削減 (2013年度比)

注1: 産業革命前に比べた世界平均気温をある目標気温以下に抑えるための人為行為による残りの温室効果ガス累積排出量

3. 部門ごとの目標

部門ごとの目標は、本町における温室効果ガス削減目標と同様に、長野県のゼロカーボン戦略を踏まえた削減目標を次のとおり設定します。

各部門の削減量を合計すると 2013(平成 25)年度比で 56%削減になり、2021 (令和 3)年度の森林吸収量 16,085 t -CO₂を、2030(令和 12)年度に同量を見込むと、60.1%削減になります。

参考として、太陽光発電・太陽熱利用のポテンシャル、森林吸収量、長野県ゼロカーボン戦略のポイントについて巻末の参考資料をそれぞれ参照ください。

次ページに、長野県の目標を参考に設定した町の目標を示します。

表 4-1 部門別の削減目標

部門	2013 年度排出量 (t -CO ₂)	2030 年度排出目標 (t -CO ₂)	区分
産業部門	91,762	42,211	54%削減
業務その他部門	34,026	12,249	64%削減
家庭部門	40,495	17,818	56%削減
運輸部門	59,898	26,355	56%削減
廃棄物等	792	657	17%削減
合計	226,974	99,290	56%削減
森林吸収量を考慮 した実質排出量	208,285	83,205	60.1%削減
森林吸収量	18,689	16,085 (目標値)	

※【部門】の区分：「総合エネルギー統計」(資源エネルギー庁長官官房総合政策課編)の区分に準拠…参考資料参照

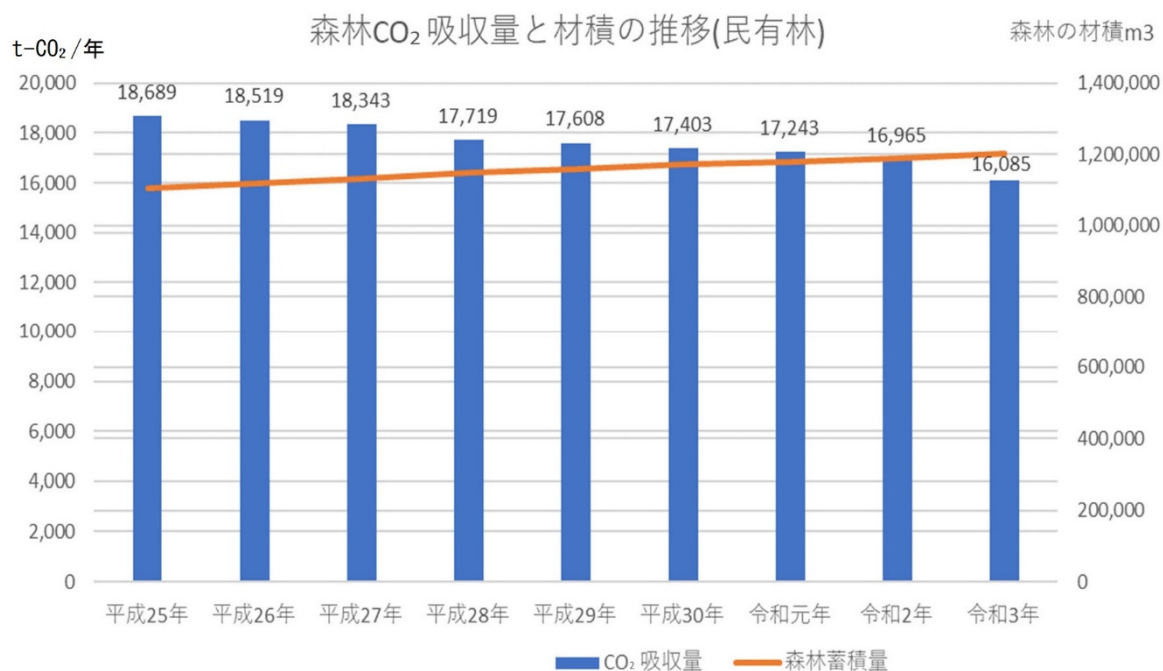


図 4-1 森林の CO₂ 吸収量

※長野県林務部公表の森林データを参照：<https://www.PRef.nagano.lg.jp/Prinsei/sangyo/ringyo/toukei/miniyurin/index.html>

森林のCO₂吸収量は、『地方公共団体実行計画（区域施策編）策定・実施マニュアル算定手法編,令和4年3月,環境省』により算出

民有林とは森林法第5条の規定による「地域森林計画」の対象となる森林（森林法第2条の規定による民有林の定義と異なる）